

工業浸流 内外面PVC樹脂コーティング軽量鋼管

「NETIIS」に登録

各種プラスチックコーティング鋼管の製造販売を行う流浸工業（本社・大阪府堺市美原区、社長・大久保幸廣氏）の内外面PVC樹脂コーティング軽量鋼管「リューコートLight」と「クリモト臭突管」が、国土交通省の運営する新技術情報システム「NETIIS」に登録（登録名「内外面P

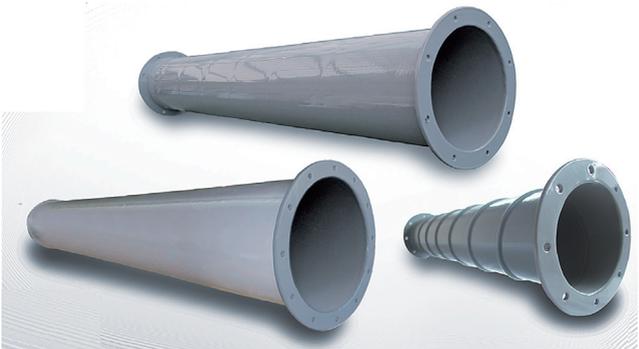
VCコーティング軽量鋼管、登録番号「KK180048-A」された。同社は、加熱した金属をプラスチックパウダーの入った流動槽に浸漬してピンホールのない塗膜加工を行う「流動浸漬」というコーティング法を国内で初めて行ったメーカー。同コーティング法を使用した「リューコ

トLight」と「クリモト臭突管」は、肉厚1・6ミリのスパイラル鋼管、板巻鋼管に板厚6ミリの薄型フランジを溶接した構造で、内外面に流動浸漬でPVC樹脂（塩ビ樹脂）をコーティングしている。

SGP鋼管に比べて重量が約5分の1程度と軽量で現場施工性にメリットがある。またPVCでコーティングされていることで耐食性にも優れる。対応サイズレンジは口径150～600Aまで（550A以上は2・3t）。直管のほか45度と90度のエルボ、レジーサ、チーズ、割フランジなどの継手類もラインアップしている。その他特殊形状にも対応できる。

耐候性に優れているため、屋外での使用が可能。公共建築工事や民間工事で、硫化水素などが発生しやすい臭突管や排気管に適用できる。

今回NETIISに登録されたことで、今後は既存分野への拡販のほか、高耐食ニーズのある他の配管向けの需要取り込みにも注力していく。



「リューコートLight」

「リューコートLight」

